

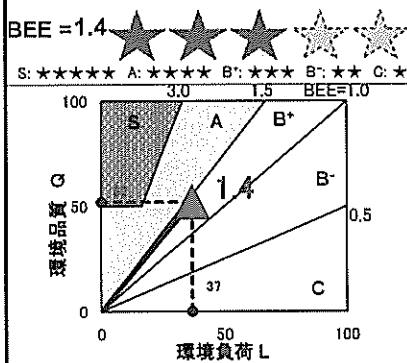
CASBEE®-建築(新築)
建築環境省エネルギー評価システム CASBEE-建

■ 評価結果 ■

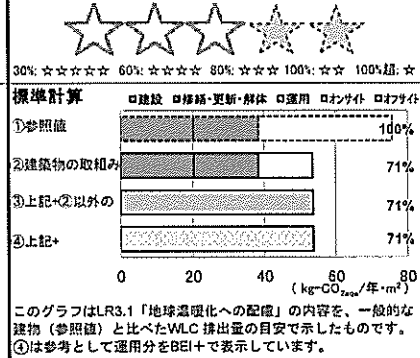
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	舞鶴(7)施設最道化工事(技術協力)	階数	地上3F		
建設地	京都府舞鶴市長浜1008	構造	RC造		
用途地域	工業地域、法22条区域、下水道整備	平均居住人員	22 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	事務所・集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2028年3月 竣工	評価の実施日	2026年6月23日		
敷地面積	22,583 m ²	作成者	伊東俊一		
建築面積	1,145 m ²	確認日	2026年6月23日		
延床面積	2,615 m ²	確認者	09435-31 久保久美子		

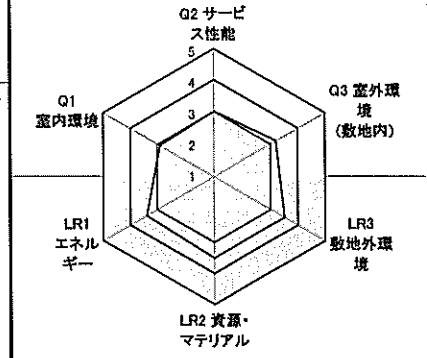
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)

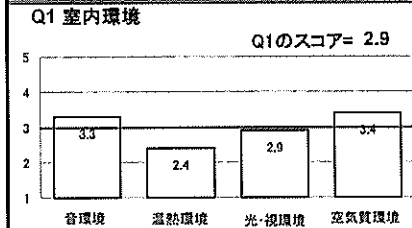


2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

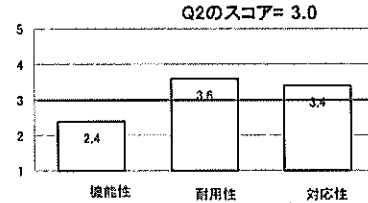


2-4 中項目の評価(バーチャート)

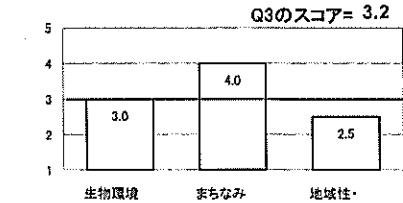
Q 環境品質



Q2 サービス性能

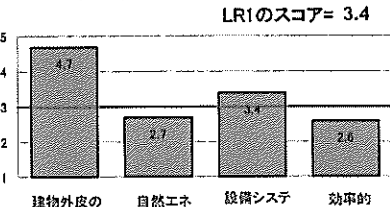


Q3 室外環境（敷地内）

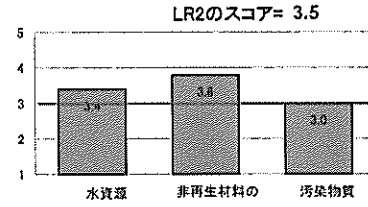


LR 環境負荷低減性

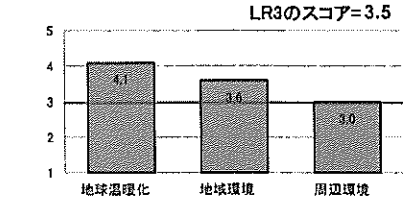
LR1 エネルギー



LR2 資源・マテリアル



LR3 敷地外環境



3 設計上の配慮事項

Table 1

- ・執務エリアと居住エリアを適切にゾーニングし、利用者の快適性、利便性及びプライバシー性に配慮した計画とした。
- ・省エネルギー性能の向上及び周辺環境との調和に配慮し、環境負荷低減を図った。

その他

・建設副産物の分別及び適正処理に配慮した計画とした。

04 原因分析

- ・事務エリア及び寄宿舎の居室の開口部は極力南面に向けることで、十分な自然採光を確保し、快適な視環境の形成を図った。
- ・適切な換気計画及び全熱交換器の採用により、良好な

Q2 第一回

- ・男性寄宿舎を3階に、女性寄宿舎を2階の事務エリアから離れた位置にまとめて集約することで、明確な利用区分とプライバシーの確保を行った。
- ・事務エリアは移動間仕切りを採用し、利用形態の変化に柔軟に対応できるようにした。

Q3 圣尔珠珠 (敬告国内)

- ・建物周囲に十分な空地を確保し、良好な屋外環境の形成を図った。
- ・建物及び舗装範囲を必要最小限とし、既存の天然芝による緑地環境の維持を図った。雨水を適切に敷地外へ排

【附】五木形

- ・外皮性能及び一次エネルギー消費性能についてZEB Ready相当の性能を確保した。
- ・高効率空調機器、LED照明、人感センサー及び全熱交換器を採用し、省エネルギー化を図った。

LR2 1000

- ・海岸沿いとなる重塩害環境を考慮し、耐食性及び維持管理性に配慮した材料・設備を採用した。
- ・設備機器の点検及び更新が容易となる計画とし、建物の長寿命化を図った。

LR3 聚酰胺纤维

・建物と道路境界線から十分離隔して配置し、周辺への騒音影響低減に配慮した。

・周辺は自衛隊施設及び海域を主体とする環境であり、周辺地域への影響が少ない計画とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

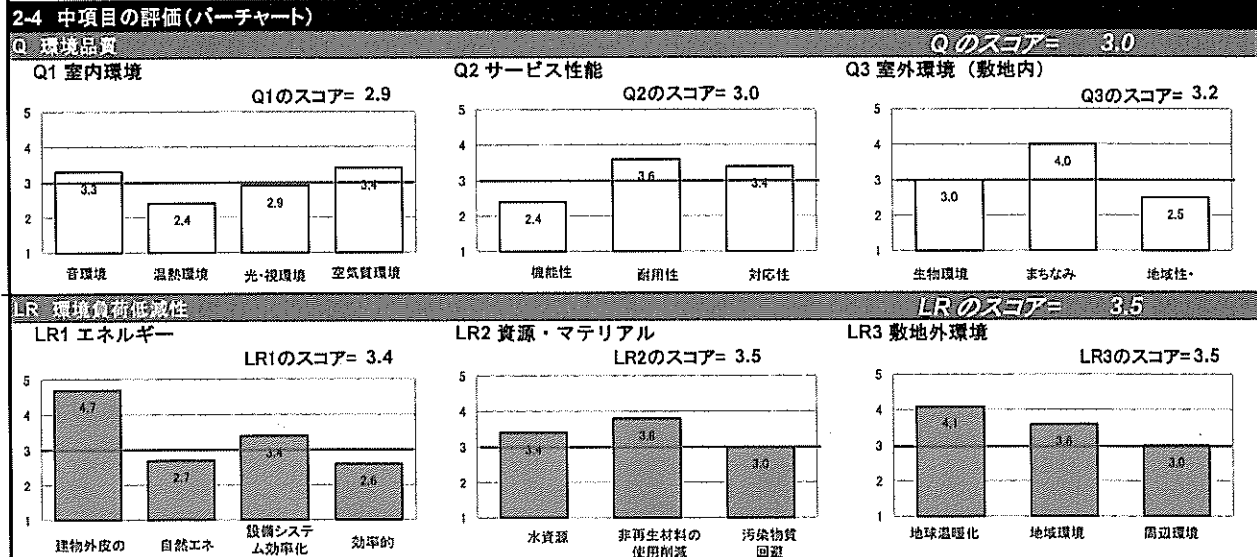
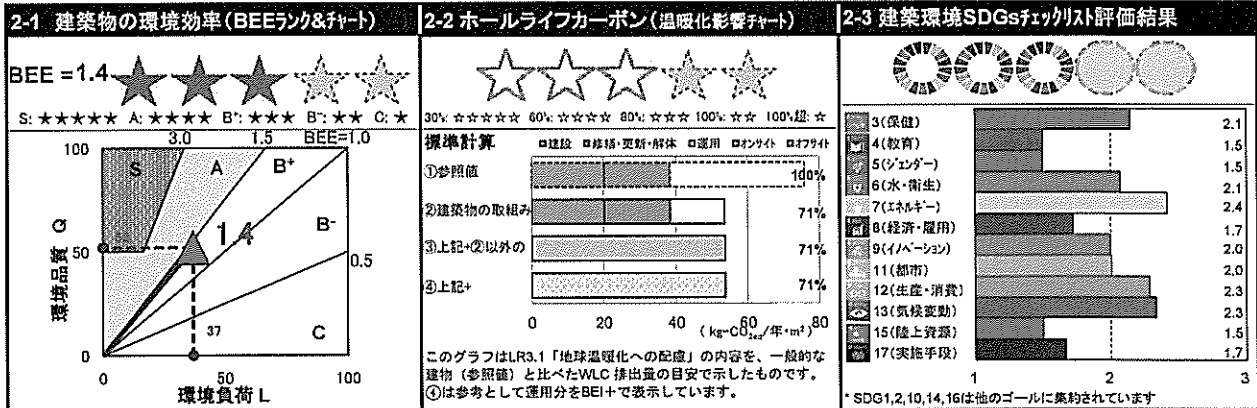
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	舞鶴(7)施設最適化工事(技術協力)	階数	地上3F
建設地	京都府舞鶴市長浜1008	構造	RC造
用途地域	工業地域、法22条区域、下水道整備	平均居住人員	22 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年3月 竣工	評価の実施日	2026年6月23日
敷地面積	22,583 m ²	作成者	伊東俊一
建築面積	1,145 m ²	確認日	2026年6月23日
延床面積	2,615 m ²	確認者	09435-31 久保久美子



3 設計上の配慮事項		その他
総合		・建設副産物の分別及び適正処理に配慮した計画とした。
・執務エリアと居住エリアを適切にゾーニングし、利用者の快適性、利便性及びプライバシー性に配慮した計画とした。		
・省エネルギー性能の向上及び周辺環境との調和に配慮し、環境負荷低減を図った。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・事務エリア及び寄宿舎の居室の開口部は極力南向きに向け、十分な自然採光を確保し、快適な視環境の形成を図った。	・男性寄宿舎を3階に、女性寄宿舎を2階の事務エリアから離れた位置にまとめて集約することで、明確な利用区分とプライバシーの確保を行った。	・建物周囲に十分な空地を確保し、良好な屋外環境の形成を図った。
・適切な換気計画及び全熱交換器の採用により、良好な	・事務エリアは移動間仕切を採用し、利用形態の変化に柔	・建物及び舗装範囲を必要最小限とし、既存の天然芝による緑地環境の維持を図った。雨水を適切に敷地外へ排
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・外皮性能及び一次エネルギー消費性能についてZEB Ready相当の性能を確保した。	・海岸沿いとなる重塩害環境を考慮し、耐食性及び維持管理性に配慮した材料・設備を採用した。	・建物を道路境界線から十分距離に配置し、周辺への騒音影響低減に配慮した。
・高効率空調機器、LED照明、人感センサー及び全熱交換器を採用し、省エネルギー化を図った。	・設備機器の点検及び更新が容易となる計画とし、建物の長寿命化を図った。	・周辺は自衛隊施設及び海域を主体とする環境であり、周辺地域への影響が少ない計画とした。
・太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギーの活用		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される